

交通量観測結果から見た社会経済動向について

中部地方整備局 東海幹線道路調査事務所 調査課 伏木章尋

1 はじめに

道路整備の進むべき方向などを検討するには、人の動きや物の動きを正確に捉えることが重要である。例えば交通量について、単に増加・減少という量的変化だけではなく、起因するもの、影響を与えているものが何であるのか、それらの要因と交通量との関わりを分析することで初めて交通量を正確に把握できると考えられる。また、道路利用者である国民の道路情報提供サービスに求めるニーズも高度化しており、今後さらに積極的な情報発信を進めていくためにも交通量常時観測データの活用が必要とされている。

このような状況から、1994年より交通量観測結果から見た社会経済動向についてとりまとめた「交通だより」を発行することにより、交通量の変化だけでなく、天候・災害・イベント・産業構造等様々な観点から交通量を捉え、いかに国民に対しわかりやすく情報発信していくかの検討を行ってきたところである。

本報告は、交通量観測結果から見た社会経済動向についてとりまとめた「交通だより」の概要、代表事例、および今後の取り組むべき方向について紹介するものである。

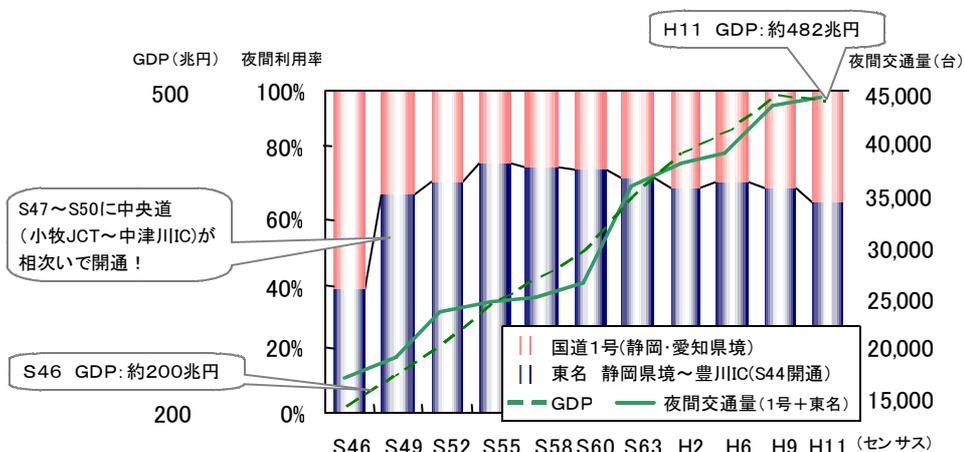
2 社会経済と道路利用の変化

近年の経済不況を反映し道路利用はどのように変化しているのかを交通量観測結果より分析する。新聞によると高速道路の料金抵抗により、以前は高速道路を利用していたトラック運送業者の8割以上が、一般道路の利用に変更している((社)全日本トラック協会)など、運送業者の高速道路離れが社会問題となっている。

一例として、静岡・愛知県境における東名高速道路と国道1号の夜間利用率および夜間交通量とGDPの経年変化を図に示す。GDPと夜間交通量はほぼ同じ傾向を示すが、経済不況の影響を受け、東名高速道路に並行する国道1号へ交通量が転換していることが数値からも読みとれる。



2002.11.6 読売新聞



東名高速道路と国道1号の夜間利用率及び夜間交通量とGDP

3 交通量観測結果から見た社会経済動向 —交通だより—

前述のように、交通量は多様な社会経済動向等の要因によりたえず変化しており、その変化をリアルタイムに分析し、とりまとめているのが「交通だより」である。

「交通だより」は1994年から年3～4回のペースで発行しており、現在までに54号発行している。各動向を、単に時系列だけではなく、天候・イベント・道路整備効果・日常行動などの事象別に分類すると下記のようなになる。以下の中から代表的なものを2例紹介する。なお、「交通だより」は、今年度より当事務所のホームページにて紹介を始めたところである。

天候	「困った雨だ！で、交通量には大きく影響」
イベント	「あの番組が見たい！と急いで帰宅したら」
道路整備効果	「新しい道路によってこんな効果が」
日常行動	「私たちの何気ない行動が交通に意外な影響を」
道路工事	「道路工事の影響は広範囲に」
情報提供	「情報提供にも使える交通量調査」
その他	「その他のジャンル」



東海幹線道路調査事務所ホームページアドレス
<http://www.cbr.mlit.go.jp/tokai/>

3.1 「天候」と交通量観測結果の関係 —東海豪雨に見る非常時の迂回交通—

2000年9月11～12日にかけて東海地方は記録的な集中豪雨にみまわれ、多大な被害を及ぼした。集中豪雨が交通に与える影響について検証した。



国道22号 新川町(路面冠水)



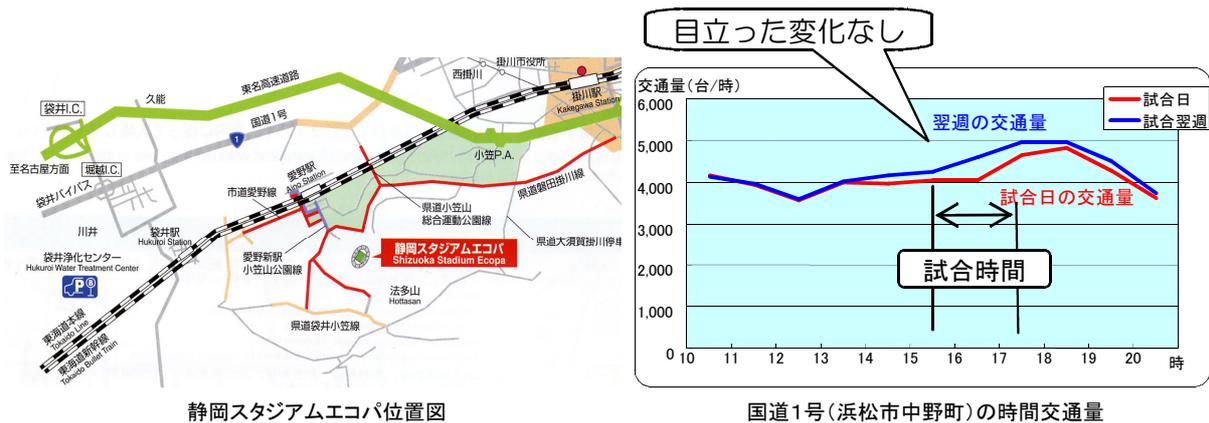
2000.9.12 岐阜新聞

3.1.1 通行止めによる迂回交通発生

東海豪雨により通行止めとなった国道22号が他の路線に与えた影響は、次ページの図に示すとおりである。

国道22号が通行止めとなったことにより、迂回路の一つとして名古屋中心部から国道41号を利用し、名神高速道路の小牧ICから一宮ICを経由するルートを選択した人が多くいたと推測され、交通量常時観測データの数値が裏付けている。

この結果より、災害時に道路網が迂回路として機能していたことが分かり、今後、環状道路を中心とした迂回路の整備といったハード面の対策を推進するとともに、既存の限られた道路網の有効活用を図るためにも、リアルタイムな情報提供を行うなどITS技術を用いたソフト対策を推進することにより、迂回路情報の提供などがスムーズに行えると考えられる。



しかし、結果的には、エコパに近接する国道1号(浜松市中野町)の交通量には、あまり変化が確認されなかった。これは、警察や地元自治体など関係機関との事前調整のもとに行われた十分な広報により道路利用者が通行を控えていただいたり、公共交通機関を利用していただくなど、道路利用者の方々に協力を求めた結果だと思われる。

今後もこうした大きな混雑が予想されるイベントについては、パーク&ライドなどの交通を抑えるための施策や、通行規制の案内など十分な広報を行うなど、関係機関と調整を図り安全な交通確保を目指すことが重要であると認識した。

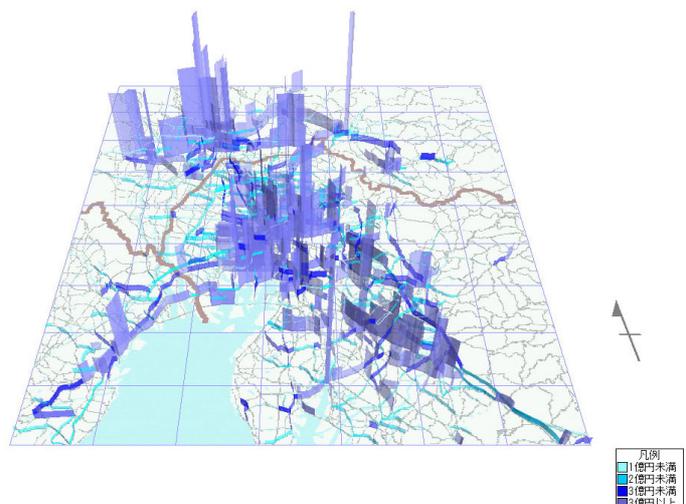
4 まとめ

冒頭にも述べたとおり、IT社会の到来・情報技術の進展の流れの中で、高度化されたニーズは携帯電話・パソコン等による情報のオンデマンド化が特徴となっており、情報の受け手となる道路利用者の情報収集に対する環境は整いつつある。

「交通だより」についても、道路利用者のニーズに対応するため、タイムリーな話題を素早くキャッチ・分析し、情報の受け手に的確に情報発信していくことが重要であり、今後も情報の入手・発信方法についてさらに多角的に検討していきたいと考えている。

今回とりまとめた交通量常時観測データの他にも、車の走行速度の変化を詳細に捉えたプローブカーデータの活用等も進められているところであり、当事務所では、これらの交通データと地域統計データ等と組み合わせることにより、より詳細な分析が可能となるようなシステムの検討も進めているところである。

最後に、「交通だより」の発行に関わってこられたすべての方々に深く感謝の意を表し、今後もより一層内容の充実した「交通だより」の発行を目指していきたいと思う。



名古屋都市圏の渋滞損失額3Dマップ